

富山・安吉遺跡

やすよし



(富山)

- 1 所在地 富山県射水市（旧射水郡大門町）安吉
- 2 調査期間 二〇〇四年（平16）六月～一〇月
- 3 発掘機関 大門町教育委員会
- 4 調査担当者 尾野寺克実・松原哲志・新宅輝久・藤田慎一
- 5 遺跡の種類 集落跡・居館跡
- 6 遺跡の年代 一五世紀～一七世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

安吉遺跡は、射水市のほぼ中央部、標高約6mの冲積地に位置する、一五世紀から一七世紀にかけての遺跡である。遺跡一帯は、室町幕府奉公衆（四番衆）の

小田氏が領した下条の地に含まれていたと考えられる。

遺跡の北方約7kmには一五世紀中葉から一六世紀前半にかけて守護代神保氏の拠点となつた放生津が所在する。神保氏は、明応の政変の際に室町幕府第一〇代將

軍足利義稙を放生津へ迎えるなど、幕府・奉公衆とも関係が深い。小田氏も、明応の政変時には足利義稙方として河内の合戦にも参戦しており、将軍義稙に伴つて越中へ下向したものと考えられる。

今回報告する発掘調査は、町道生源寺赤井線の建設に伴うものである。検出した主な遺構は、一五世紀から一七世紀前半までの土坑・井戸・溝などである。

遺構は、一五世紀のものは希薄で、一六世紀前半から中葉にかけて、南北方向の大溝や、一辺10mの方形区画溝などが掘削される。一六世紀後半から一七世紀前半には、前代の溝が埋められ、東西方向の大溝が掘削されるが、一七世紀中葉以降の遺構は確認できず、集落は一七世紀前半に廃絶する。

遺物は、中世土師器・珠洲・青磁（竜泉）・染付（漳州）・瀬戸美濃・越中瀬戸・伊万里・木製品（木簡・漆器・曲物・下駄・堅杵）・石製品（板碑・五輪塔・宝篋印塔・如来石仏・石臼・石鉢・硯・砥石）が出土している。

木簡は、長辺約3m短辺約1m、深さ1mの不整形の方形土坑から一点出土した。同じ遺構からは、中世土師器・珠洲・青磁（竜泉）・漆器椀・箸状木製品など、一五世紀後半から一六世紀前葉に比定される遺物が出土している。

輸入陶磁器や、今回紹介する武家様花押の記された木簡の存在などから、一六世紀の居館的性格を想定しているが、区画溝や大溝の

存続時期に差異が認められるため、遺構の構成・性格については検討を要する。

8 木簡の釦文・内容

(1) 「▽○□」
〔金カ〕 山馬札
〔斗カ〕 □□(花押) <
」

・「▽○□」 <

75×36×4 031

小型の長方形の板材で、上下とも端から一・五cmの位置に左右から抉りが施される。また、上端より一・三cm下方の中央部には、小孔が穿たれている。花押は、室町時代の武家様花押とみられることから、幕府奉公衆小田氏との関連を想定できる。「□山」は、安吉遺跡の東南部に位置する石清水八幡宮領金山保を指すと考えられる。

遺跡は、射水郡の内水面交通・物資運搬に重要な役割を果たした旧東・西神楽川に挟まれた水系の要衝に位置し、木簡の出土は、幕府奉公衆である小田氏が、石清水八幡宮料所からの貢納物の輸送に深く関わっていたことを示唆するものと評価できる。

9 関係文献

大門町教育委員会『安吉遺跡発掘調査報告(三)』(大門町埋蔵文化財調査報告二二、二〇〇五年)

(金三津英則〈射水市教育委員会〉)

